

---

# 卒業式

音無 無音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

卒業式

### 【Zコード】

N3411R

### 【作者名】

音無 無音

### 【あらすじ】

私の幼馴染は今年でこの高校から去つてしまつ。その前に、一言言わなきや。 彼女、浅野 沙弓は思った。

もつすぐ卒業式だね、と。

誰かが言った。

私は「そっかあ」と振り返り、雪の降っている空を見上げた。

「圭君」

私はふと。

目の前を歩いていた幼馴染の之野田 ののだ 圭君に声をかけた。

「ん？ ああ、浅野 あさの 沙弓 さゆみ サン」

「やめてよ。そっちが先輩でしょ。もつすぐ卒業だね

「そうだな。」

名残惜しそうに囁く。

教室に入ると、クラスの人たちが先輩へのメッセージを書いていた。  
私も書くのかな。

考へてないや。

「沙弓！ おはよ。どしたの？ 浮かないかおして」

「え？」

確かに、圭君との別れはさみしいけど……。

「あ、それと、はいこれ。書いて」

渡されたのは色紙。

「？ うん」

理解のいかないまま、その色紙を手にとった。

家に帰つて、勉強をしていくとか。

私は思った。

このまま、自分の心のモヤが取れないままでいいのかな、と。  
いいはずがない。

だつて。

私は彼が好きなのだから。

「え、なつ！？」

自分の思考に対し真つ赤に顔を初めてしまつた。  
不覚。。。

卒業式当日。

「おめでとー」<sup>ゞ</sup>ひこまーす

「ありがとー」

私はそんな中、作り笑顔で卒業生を送つていた。

「んな顔だと誰も寄り付かねえよ」

「！」

その言葉に顔を上げると、圭君が。

「え、な？」

その時一人の間を押しのいて女子が。

「せんぱあい、第二ボタンくださいよお」

「あ、だめです！あたしに！」

意外と人気なのがな。

「ん？ダメダメ。やる相手決まつてるから  
なにそれえ、と彼女らは言つ。

そうだよね、好きな相手ぐらいいるよね。

「おい、沙耶。帰るぞ」

「え？ あ、はい」

ぱたぱたと、私は彼について行った。

「沙耶」、手を出せ

「？」

いわれるがままに手を出すと口ロン、とボタンをくれた。  
彼の第二ボタンがない。

「やる」

「・・・・・・・・」

私は畳然とした。

「何？ いらねえの？」

「い、いります！ いる！ ！」

「ふん」

嬉しそうに彼は笑った。  
通じたのかな？

「圭君」  
「何？」  
「大好き！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3411r/>

---

卒業式

2011年10月3日11時24分発行